

手紙 四

宮沢賢治

青空文庫

わたくしはあるひとから云いいつけられて、この手紙を印いんさつ刷し
てあなたがたにおわたしします。どなたか、ポーセがほんとうに
どうなったか、知しっているかたはありますか。チュンセがさつ
ぱりごはんもたべないで毎日考くえてばかりいるのです。

ポーセはチュンセの小さな妹ですが、チュンセはいつもいじ悪わる
ばかりしました。ポーセがせつかく植うえて、水をかけた小さな桃もも
の木になめくじをたけておいたり、ポーセの靴くつに甲かぶとむし虫むしを飼かつ
て、二ふた月つきもそれをかくしておいたりしました。ある日などはチ
ュンセがくるみの木にのぼって青い実みを落おとしていましたら、ポー
セが小さな卵たまご形がたのあたまをぬれたハンケチで包つつんで、「兄あさ

ん、くるみちようだい。「なんて云いながら大へんよろこんで出て来ましたのに、チュンセは、「そら、とつてごらん。」とまるで怒ったような声で云つてわざと頭に実を投げつけるようにして泣かせて帰しました。

ところがポーセは、十一月ころ、俄かに病氣になつたのです。おつかさんもひどく心配そうでした。チュンセが行つて見ますと、ポーセの小さな唇はなんだか青くなって、眼ばかり大きくあいて、いっぱいに涙をためていました。チュンセは声が出ないのを無理にこらえて云いました。「おいら、何でも呉れてやるぜ。あの銅の齒車だつて欲しけややるよ。」けれどもポーセはだまつて頭をふりました。息ばかりすうすうきこえました。

チウンセは困こまつてしばらくもじもじしていましたが思い切つてもう一ぺん云いいました。「雨あめ雪ゆきとつて来てやるか。」「うん。」

ポーセがやつと答えました。チウンセはまるで鉄砲丸てつぽうだまのようにおもてに飛とび出しました。おもてはうすくらくてみぞれがびちよびちよ降ふっていました。チウンセは松まつの木の枝えだから雨雪あめゆきを両手りょうてにいつぱいとつて来ました。それからポーセの枕まくらもとに行つて皿さらにそれを置おき、さじでポーセにたべさせました。ポーセはおいしそうに三みさじばかり喰たべましたら急きゆうにぐたつとなつていきをつかなくなりしました。おつかさんがおどろいて泣ないてポーセの名なを呼よびながら一いっしょう生せいけん命めいゆすぶりましたけれど、ポーセの汗あせでしめつた髪けの頭かぶはただゆすぶられた通りうごくだけでした。チュ

ンセはげんこを眼めにあてて、虎とらの子供こどものような声で泣きました。

それから春になつてチュンセは学校も六年でさがつてしまいました。チュンセはもう働はたらいているのです。春に、くるみの木がみんな青い房ふさのようなものを下げているでしょう。その下にしやがんで、チュンセはキャベジとこの床をつくっていました。そしたら土の中から一ぴきのうすい緑みどりいろの小さな蛙かえるがよろよると這はつて出て来ました。

「かえるなんざ、潰つぶれちまえ。」チュンセは大きな稜かど石いしでいきなりそれを叩たたきました。

それからひるすぎ、枯かれ草の中でチュンセがとろとろやすんできましたら、いつかチュンセはぼおつと黄いろな野原のようなど

ころを歩いて行くようにおもいました。すると向うにポーセがし
もやけのある小さな手で眼をこすりながら立っていてぼんやりチ
ユンセに云いました。

「兄さんなぜあたいの青いおべべ裂いたの。」チユンセはびつ
りしてはね起きて一生けん命そこらをさがしたり考えたりしてみ
ましたがなんにもわからないのです。どなたかポーセを知ってい
るかたはないでしょうか。けれども私わたくしにこの手紙を云いつけたひ
とが云っていました。「チユンセはポーセをたずねることはむだだ
なぜならどんな子どもでも、また、はたけではたらいっているひ
でも、汽車の中で苹果りんごをたべているひとでも、また歌う鳥や歌わ
ない鳥、青や黒やのあらゆる魚、あらゆるけものも、あらゆる虫

も、みんな、みんな、むかしからのおたがいのきょうだいなのだ
から。チュンセがもしもポーセをほんとうにかあいそうにおもう
なら大きな勇氣ゆうきを出してすべてのいきもののほんとうの幸福こうふくを
さがさなければいけない。それはナムサダルマプフンダリカサス
ートラというものである。チュンセがもし勇氣のあるほんとうの
男の子ならなぜまつしぐらにそれに向つて進すすまないか。「それか
らこのひとはまた云いいました。「チュンセはいいこもだ。さア
おまえはチュンセやポーセやみんなのために、ポーセをたずねる
手紙を出すがいい。」そこで私はいまこれをあなたに送おくるのです。

青空文庫情報

底本：「ポラーノの広場」角川文庫、角川書店

1996（平成8）年6月25日初版発行

底本の親本：「新校本 宮澤賢治全集」筑摩書房

1995（平成7）年5月

入力：ゆうき

校正：noriko saito

2009年7月16日作成

2009年8月15日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.azora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

手紙 四

宮沢賢治

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>